

授業者と学生の相互行為がもたらす教育効果IV

— 受講生の属性による授業通信質問紙得点の違い —

北神 慎司 ・ 藤田 哲也
(島根大学 法文学部) (法政大学 文学部)

本研究では、藤田・北神 (2006, 日教心, 前件発表) で精査した授業通信質問紙の各尺度得点が、受講生の属性によって異なるか否かを比較する。また、その他の指標 (成績評価, 授業評価) との関連についても検討する。

[方法]

授業通信質問紙 (藤田・北神, 2006; 前件) 以外に用いた指標は以下の通り。

- ・ **授業評価** 授業通信質問紙と同時に回答を求めた 11 項目について因子分析を行ったところ、「受講態度の自己評価 (3 項目)」と「授業自体に対する評価 (11 項目)」の 2 因子が抽出された。
- ・ **レポート評価** 授業内容に関連する文献を紹介し、自分の意見を加えるという応用的なものを期末に提出させた。60 点満点。
- ・ **出席点** 最大 40 点を持ち点とし、1 回欠席するごとに -5 点、遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算。

[結果と考察]

- ・ **授業別** 3 クラス間の比較を行ったところ、「情報受信」で H 大 1 部が有意に低かった (Figure 1)。
- ・ **専攻別** 授業の種類を込みにし、受講生を「心理学専攻生 (N=57)」と「非専攻生 (N=59)」に分けて比較を行ったところ、「理解補足・深化」以外の 3 尺度の得点差が有意だった (Figure 2)。
- ・ **各指標間の相関** 成績 (レポート評価, 出席点) と授業通信質問紙の尺度得点との間には有意な相関は見られなかった。授業評価との関連では、「受講態度自己評価」と弱い相関、「授業自体の評価」とは中程度の相関が見られた (Table 1)。

ただし、受講生を「心理学専攻生」と「非専攻生」に分けて相関を求めたところ、授業評価の「自己評価」との相関は、「理解補足」では心理学専攻生・非専攻生とも弱い相関が見られたのに対し、残りの 3 尺度では、心理学専攻生では有意な相関が得られず、非専攻生では中程度の相関が得られるという違いが見られた。

以上を総合すると、授業通信の教育効果は、当該の授業 (この場合は心理学) の内容を専攻する学生よりも、専攻しない学生にとって明確であることが示唆された。専攻生は授業通信の有無以前

に、授業内容に様々な形で動機づけられているのに対し、非専攻生にとっては教員との相互行為がより重要な意味を持っているのであろう。

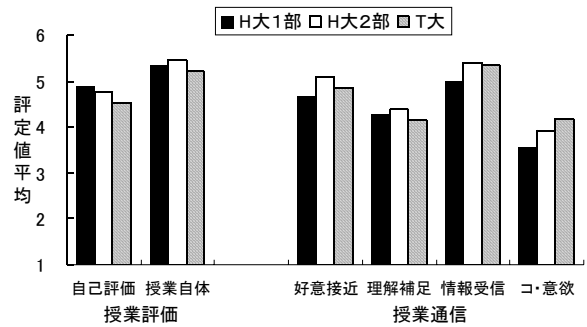


Figure 1 各尺度得点の授業別平均 (max=6)

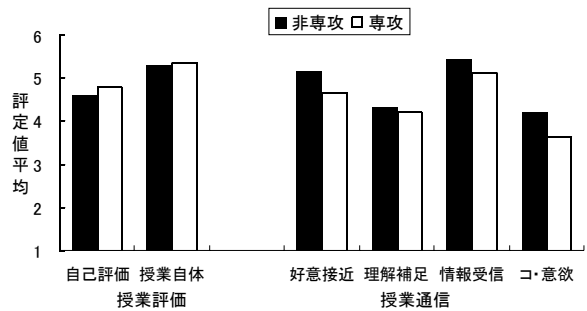


Figure 2 各尺度得点の専攻別平均 (max=6)

Table 1 授業通信の下位尺度と各指標の相関

	好意 接近	理解 補足	情報 受信	コ・ 意欲
成績評価				
レポート評価	-.04	-.01	.06	.02
出席点	.01	-.01	-.15	.06
授業評価				
自己評価	.21*	.28**	.22*	.23*
授業自体	.50**	.49**	.52**	.47**
授業通信				
好意接近	—	.44**	.69**	.74**
理解補足	.44**	—	.48**	.57**
情報受信	.69**	.48**	—	.61**
コ・意欲	.74**	.57**	.61**	—

N=116, *は $p < .05$, **は $p < .01$